

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成26年11月)

～現状判断は4か月連続で50を下回る水準に～

- 景気ウォッチャー調査・11月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が2か月連続で低下したほか、先行き判断も3か月連続の低下となった。現状判断は、景気横ばいを示す50を4か月連続で下回り、消費増税後に最低となった4月以来の水準となっている。
- 現状判断については、免税商品の拡大に伴う訪日客の活発な動きは続いているものの、月後半を中心に気温が高めとなり、季節商材の売行きが芳しくなかったほか、円安の進行で原材料コストなどが上昇し、幅広い業界に悪影響が出ている。
- 消費税増税の影響については、増税前の状態に戻ったという業種もあるものの、消費者の間で節約志向が強まっており、多くの業界では値引きの動きなどが進んでいる。
- 先行きは、消費再増税の延期が発表されたことで、消費者心理へのプラスの効果が期待される一方、衆議選の結果を含む先行き不透明感が、消費者を不安にさせているとの声もある。また、円安の進行による企業収益の悪化懸念や、消費者の節約志向に対する懸念の声も根強い。

「円安」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	な や や 良 く な っ て い る	百貨店(企画担当)	・円安が続き、外国人向けの売上が前月以上に増加している。免税売上は一般商品だけでも前年の3倍となっており、消費税増税後はマイナス基調が続いている既存客売上の落ち込みをカバーし、今月も増収の見通しである。
		一般レストラン(経理担当)	・法人関連の宴席の利用状況は、前年とほぼ同じ水準である。一方、円安の影響で外国人客による利用が好調である。
	な い ら	都市型ホテル(管理担当)	・客室部門は円安の影響もあり、中国や台湾からの宿泊客が増加し、高稼働が続いている。一方、一般宴会や結婚式、レストランについては、相変わらず低調に推移している。
	な っ て い る	百貨店(営業担当)	・円安傾向で海外の高級ブランド品の値上げを予想した客が、輸入宝飾品を購入する動きもあるが、全体的には店頭に来客数や買上額が減少してきている。
		スーパー(企画)	・11月中旬以降、個人消費が停滞し始めた。急激な円安や株高に伴う先行き不安や衆議院選挙の影響もあるが、気温の変化が一番の理由であり、その次が景況感の悪化である。
		その他専門店[スポーツ用品](経理担当)	・輸入企業である当社は、急激な円安による影響への対応が遅れ、業績の停滞感がある。
		都市型ホテル(支配人)	・円安により輸入品の価格が高騰している。また、エネルギー価格の上昇で製造原価や原価率が上昇し、飲食関係では利益の圧迫が強いられるなど、景気は悪化しつつある。
	旅行代理店(経営者)	・国内旅行はやや前年を上回って動いているが、海外旅行の予約受付が非常に悪い。円安による割高感が強まっているようである。また、欧州方面ではエボラ出血熱への不安も聞かれるなど、風評被害もみられる。	
な っ て い る	な っ て い る	スーパー(店長)	・景況感の悪化のほか、円安による物価の上昇などが家計を圧迫している。
企業動向関連	な い ら	金融業[投資運用業](代表)	・円安、株高の動きが進んでいるが、あまりに急速な進行であるため、そのうち反動が出てくる。結局は以前と変わらない経済状況にいったんは落ち着く。
	な っ て い る	繊維工業(総務担当)	・更なる円安の影響で、仕入コストが急激に上昇してきている。
		金属製品製造業(経営者)	・取扱製品が輸出品の関連部品であるにもかかわらず、動きに何の変化もみられない。円安の進行に少しは期待していたが、以前よりも荷動きは悪くなっている。
	その他非製造業[機械器具卸](経営者)	・ここ3か月ぐらいで15円も為替の変動があり、円安に進んでいる。すべての輸入商品の値段が上がり、今のところは利益が圧迫されている。	

